

盛岡みたけ支援学校奥中山校

研究テーマ

「児童生徒の個々の課題に迫る授業づくり」

～自立活動の観点をいかした実態把握を通して～

(2年次研究の2年目)

1 テーマ設定の理由

今年度の取組は、「児童生徒個々の課題に迫る授業づくり」をテーマとした2年次研究の2年目にあたる。1年次では、サブテーマの「自立活動の観点をいかした実態把握」に焦点を当て、全校児童生徒について実態把握を行った。また、そこから見えてきた「中心となる課題の選定」と「課題に対する目標設定」も併せて行った。

それを受けて2年次では、個々の目標を授業の中にどう取り入れるか、評価をどのように行うかの2点についての実践及び研究に取り組むこととした。目標達成に向けて授業における手立てを検討し、授業後はその有効性や改善策の検証を行った。

2 研究の目的

- (1) 教職員一人ひとりが児童生徒の的確な実態把握を根拠とした授業づくりを行う。
- (2) 授業づくりにおける手立て等の有効性の検証を行い、共有する。

3 研究の内容

(1) 実態把握と目標の設定

昨年度まで在籍していた児童生徒についての実態把握及び目標設定については、昨年度作成した内容の確認を学部ごとに行った。新入生については、昨年度と同様の方法で実態把握と目標設定を行った。

(2) 手立ての設定と実践

個々の目標を達成するための手立てについて学部で検討し、授業の中で実践した。小学部は音楽と体育、中学部は保健体育を実践の場とした。

(3) 設定した手立ての検証と改善

授業後に振り返りの場を設定し、その中で手立

ての有効性について検証を行った。必要に応じて改善したり、有効だと思われるものについては他の授業にも取り入れるなど一人ひとりの目標達成に向けた実践を継続して行った。

(4) 研究授業

全校授業研究会を中学部で1回実施した。中学部の生徒全員を対象とした保健体育(重複学級は教育課程上自立活動の位置付け)の授業を行い、盛岡みたけ支援学校二戸分教室の菊池千恵子副校長から助言をいただいた。

4 まとめ

メインテーマ「児童生徒個々の課題に迫る授業づくり」の実現に向けて、「自立活動の観点」という共通の視点をもつことで、根拠をもって児童生徒を捉えたり授業を見直したりすることができた。また、手立てを取り上げて検証、改善することにより、対象の授業のみならず、学校の活動全体に手立てを生かせるようになった。

校内研究としての取り組みが終わった後も、各教員が研究で取り組んだ視点を忘れずに、授業づくりや授業改善を継続して行っていくことが課題である。

5 講演会(オンラインによる本校との合同開催)

演題:「主体的、対話的で深い学びの視点を踏まえた授業づくり:社会の中で他者と関わり、よりよく生きる児童生徒の育成を目指して」

講師:弘前大学大学院教育学研究科 教授

菊地 一文 氏

期日:令和3年7月28日(水)

参加者:17名

6 刊行物

研究収録の刊行なし。